



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.726 No. 4034

7/23 出版記念会開催!

闘いの如意棒は国鉄斗争にある!

七月二三日、岩井章元総評局長と中野委員長の共著「大失業時代の労働運動」の出版を祝う集いが開催された。集いには、戦後の労働運動をけん引された先達の方々、現役の活動家を始め、各界の人士九〇名が参加し、和気あいあいのうちに、闘う労働運動の再建を誓いあつた。

連合が結成されたことである。これを覆すことぬきには何を言っても始まらない。これができなければ、歴史が教えるように、体制翼賛会、戦争の道にふみ込むことになる。この闘いの如意棒は国鉄闘争にあると信じている」と提起した。

岩井さんは、「村山内閣は、総与党化、総保守化の流れにのっている。この流れのなかで弱者が切り捨てられようとしている。その代表が国鉄の首切りだったが、このような例は、今日本中数えきれないほどある。産業の空洞化―首切りと裏腹の関係で、自衛隊が海外に出て行くとか、自衛隊は合憲、ということが言われている。国鉄闘争から、このような事態をはね返し、弱者と手を取り合つてがんばっていききたい」と訴え、また、中野委員長は、「五五年体制の崩壊という状況のなかで、労働運動の大切さを今ほど痛切に感じるときはない。私は、世の中の政治の流れ全ては、労働者がどのようなスタンスに立っているのかによって決まると信じている。そのような視点から見ると、現在の状況を規定している一切の問題の根源は、総評が解散し、

続いて、レッドパージ当時、国労の副委員長であつた鈴木市蔵さんがたち、「世界の大きな変動のとき、世界的な革命のときが訪れている。この本は、その闘いの指針を示している」と熱烈な挨拶を送り、乾杯の音頭をとつた。歓談に入つてからも、佐藤昭夫さん(早大教授)、原茂さん(元炭労委員長)、山田

「大失業時代の労働運動」出版記念会



青年部サマーキャンプ 65名結果大成功!

宏二さん(評論家)、中江昌夫さん(呼びかけ人)、動労千葉弁護団、そして、労組交流センターをはじめ、現役の労組活動家の諸士が次々とあいさつにたち、出版記念会は、盛会のうちを終了した。



反合・運転保安確立! 反戦・反核を担う労働運動を!